屎字當音裸、蓋麻良之省、鐵槌傳、題雁門太守羅泰、卽省麻良爲羅也、今俗或呼爾、與玉篇屎字音義皆不同也、日本國善惡現報靈異記三卷、藥師寺僧景戒撰、所引中卷文、原書伊都作伊刀、死時蟻著其閑、作卒爾閑著、蟻嚼痛死、郡下人下寶下、並有若干字、此節文、閑俗閑字、見龍龕手鑑、下總本、刻版本、閑作閑非、按以開字爲女陰、見新撰字鏡屎字注、新撰字鏡又云、蘭山女也、阿介比、卽源君所言蔔子、草生山中、其子熟罅坼、狀似女陰、故謂之山女、或謂之蘭、蓋皇國會意字、是亦以開爲女陰也、

〔類聚名義抄七門〕闊閑ニ俗マラ

〔伊呂波字類抄末人體〕閑マラ、屎破前、一云万良、今屎閑字也、　屎髀骨也、亦作髀、　屆　裸　玉莖已上同男陰也、

〔下學集上支體〕陰莖男陰前、

〔增補下學集上支體二〕玉莖

〔書言字考節用集五肢體〕男根男陰、外腎、玉莖、陰莖、並同　人勢同本草　屎同字彙、男陰異名、屎上同

〔身體和名集邊〕ヘノコ　陰莖玉莖

〔身體和名集知〕チンボ　男根

〔身體和名集良〕ラ　男根

〔貞丈雜記十五言語〕一陰莖をまらと云ふは、近世の俗語にはあらず、古代よりの名也、古今著聞集、古事談、宇治拾遺物語等の古き書にまらとあり、源順が和名抄莖垂類の部に、玉莖の二字を出だして、和名をば出ださず、牛馬體の條に、陰脉の二字を出して、俗云麻良佐屋とあり、然れば順の時代もまらと云ひし也、又今の世は、まらの事をへのこと云ふは非也、和名抄には、陰囊の二字を俗に布久利と記し、陰核の二字をば俗云篇乃古と記したり、陰核は今の世に云ふきんたまの中のくりくり也、そのくり〳〵を古はへのことといひし也、然ればまらの事をへのこと云は稱違也、これらの名にも故實あり、何事も古今違の事あり、